



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

https://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.748 2025.3.26

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

北区新年度予算 100 億円の歳入増は

北区議会
第1回定例会
最終本会議

積み立てではなく

暮らしの支援に

日本共産党・新社会・れいわが予算組み替え提案

一般会計予算の組み替えを求める動議

● 北区独自の暮らし応援・物価高騰 対策臨時給付金の支給 21億円



- ▷ 扶養のみ世帯に3万円の給付金
- ▷ 課税標準額 100 万円以下の納税者、家計急変世帯に3万円の給付金
- ▷ 介護従事者に3万円の給付金
- ▷ 障がい者サービス従事者に3万円の給付金
- ▷ 中小事業者向けの直接支援
- ▷ 施設使用料の引き上げを中止し若者料金を創設

● 住宅支援 5000万円

- ▷ 単身者・学生・非正規雇用・住宅確保要配慮者などへの家賃補助制度の創設

● 教育費の負担軽減 7億3700万円

- ▷ 小中学校の学用品を所得制限なしで全額無償化
- ▷ 小中学校の修学旅行費無償化
- ▷ 中学校・義務教育学校の標準服代無償化

● 国保料の負担軽減 9300万円

- ▷ 18 歳までの均等割5割相当給付

財源

228 億円で積み上がった
財政調整基金のうち

29 億 8000 万円を活用

25日の北区議会第1回定例会最終本会議で、日本共産党北区議員団、新社会党、れいわ新選組が共同で、総額約30億円の一般会計予算の組み替えを求める動議を提出しました。

25日の北区議会第1回定例会最終本会議で、日本共産党北区議員団、新社会党、れいわ新選組が共同で、総額約30億円の一般会計予算の組み替えを求める動議を提出しました。実現をめざします。(のの山けん)

がありながら年度末と新年度で80億円を基金に積み立てる予算案に対し、財調基金の活用で暮らしの支援を求めたものです。自民、公明、維新などの反対で否決となりましたが、今後も

「赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定検討会」が終了

市街地再開発の是非先送りに

26日、第10回赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定検討会が開かれ、基本計画案を了承し、2か年に渡る検討会が終了。多くの区民の関心は、タワマンを呼び込む市街地再開発を推し進めるのか、それとも現在の街並みを残す修復型まちづくりにするのか、また、赤羽小や駅前商店街、赤羽公園が存置されるのかにあった。ところが区は、検討会途中から再開発の是非や公共施設の更新については「次年度以降の検討」とし、結果、基本計画案には具体的な整備方針は盛り込まないことになった。

この検討会に、国交省出身で、3月末には退任して同省へ戻ることになっている犬飼副区長が出席しあいさつ、赤羽にはかつて賑わいのある商店街が存在していたが、今は「ど

基本計画策定検討会
最終回でのあいさつ

立つ鳥跡を濁した副区長発言

ここでもある飲み屋街になってしまった」などと述べた。一番街やシルクロード、OK横丁は、赤羽の大きな魅力の一つであり、今も多くの人が楽しみに訪れる唯一無二の飲食店街なのに、である。

また副区長は、「赤羽がメディアでよく取り上げられるようになっていくが、千ペロかタワマンかの二元論ではない。正しい情報発信が必要」とも述べた。しかし、タワマンを誘致すれば、立石駅前の再開発で「呑んべ横丁」が消滅したのと同じように、一番街などの飲食店街が、全て撤退に追い込まれることは明らかである。

具体的検討は先送りとしながら、再開発への意向が透けて見えるかのような発言に違和感を覚えたのは、私だけではないのではないか。(のの山けん)

赤羽まちづくり 次年度以降の検討は民主的に



やさしいまちをつくる会きたくと、住民本位の赤羽まちづくりを進める会は21日、山田区長に、赤羽駅周辺地区まちづくりに関する要請書を提出しました(写真)。

要請書は、パブリックコメントに付される「まちづくり基本計画案」について教室型説明会を開催することや、次年度以降の検討に住民の声を反映させ、新たな会議体では民主的運営に努めること、まちづくり協議会の活動を促進することなどを求めています。(のの山けん)